

ふうじ

取材メモ

③



11/ 今回の取材テーマ

空気の撮影



②

印象深かった撮影としては、阿賀野市のススキ野で夜間に撮影した1枚。台風が近づきつつあり、強風の中、月明かりで撮った。激しく揺れるススキが、30秒のシャッタースピードで、まるで雲海のように写り、不思議な世界になった。

長い間この仕事をしてきて感じるのは、「空気を撮る」というのはカメラマンにとって、永遠の課題。1枚の写真に風、音、匂い、気温を焼き付けることが、プロを目指す仕事ともいえる。

写真、文章／スタジオF(t) 渡部 佳則

- ①シャボン玉のパフォーマンス。気持ちのいい風が吹いていた。
 ②風に揺れるコスモス。揺れ方で印象ががらりと変わる。
 ③台風近く月夜に。揺れるススキが雲のよう。

編集後記

この日の頃、大通りにあった商店までおやつを買いくに行つた。日暮れの早い冬場は、暗い道を行くのだが、なぜか浜風に向かうことが多かった。歩き始めた途端、風の強さに心が折れそうになつたが、親にねだら手前途中で引きかえす訳にもいかず、風のなかを進むしかなかった。しばらくすると体が温まり、〈風に負けるもんか〉という気持ちになり、夜道の心細さを忘れ、念願のおやつを手に意気揚々と戻ってきた記憶がある。これからひと月もすれば新潟は鍛えの時期を迎える。憂鬱な雲が空を塞ぎ、地表面のあらゆるもののが季節風にもまれるが、それだけに己心が試される。常に増し換気に神経を使わざるを得ない現在。これを機に、あたりまえに吹いてくる風を科学的に知りつつ、もっと五感で味わってみたい。身にまとわりつく風も、ビルの周辺に逆巻く風も、ふと大自然へ誘う素敵な現象だ。居ながらにして自然の懐かしさを感じることができる。その点、新潟は風に恵まれている。(渋川)

ふうじ 2021秋号 vol.54

企画編集 ふうじ編集室
 発行人 高橋 佑
 取材編集 渋川綾子
 佐々木聰
 写 真 渡部佳則 東浦一夫
 長谷川広夢
 デザイン 斎藤達司(株)ディミルギア
 題 字 小林 翠

発行所

まごころ印刷の
株式会社 タカヨシ ふうじ 編集室

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 私たちは新潟の食、文化、風土の伝承を通じて持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

- 本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
 ■東京支社 / 〒113-0034 東京都文京区湯島3丁目24-11 湯島北東ビル2階 TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
 ■上越営業所 / 〒943-0805 新潟県上越市木田2丁目1番1号 上越セントラルビル5階2 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
 ■仙台営業所 / 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5丁目347 上杉オオカミビル501号室 TEL (022) 266-1711 FAX (022) 266-1712
 ■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区1丁目79 第六名昭ビル6A TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
 ■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp>

「ふうじ」はここに置いてあります

- 【新潟市】
 <中央区>ANAクラウンプラザホテル新潟、駅前オフィスNII GATA、NSG学びステーション、NST、NPO法人 Made in 越後、上古町商店街、旧小瀬家住宅、県立自然科學館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、田中堅本店みどり工房、朱鷺メッセ、新潟絵屋、新潟 加島屋本店、新潟県政記念館、新潟県庁広報展示室、新潟県民会館、新潟国際情報大学、新潟中央キャンパス、新潟市市民活動支援センター、新潟市生涯学習センター、新潟市食育・花育センター、新潟市中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンブザ、ビアBandai、ホテルリタリア軒、ホテル日航新潟、りゅーとひーあ新潟市民芸術文化会館<東区>桑名病院、パティスリークエスカルアレン<西区>新潟ふるさと村、新潟大学附属図書館、佐治莊 <南区>新潟市農業活性化研究センター、新潟空港、新潟市民会館、新潟市文化博物館、<西蒲区>カーブドッグ、ドーナ・ショウ <秋葉区>カフュギャラリー・やまぼうし、川内自動車、新津鉄道資料館【新潟市】加治川地区公民館、紫雲寺地区公民館、新發田市生涯学習センター、新發田市文化会館、新發田市立図書館、農浦地区公民館【聖籠町】聖籠観音の湯ざぶる【村上市】イヨボヤ会館、村上市観光協会【長岡市】新潟県立歴史博物館、長岡市立科学博物館、長岡市立中央図書館、やまこし復興交流館おたら【燕市】分水ビジャーサービスセンター【出雲崎町】越後出雲崎天領の里【湯沢町】雪国観光舎 越後湯沢温泉【南魚沼市】桜苑【佐渡市】SADO伝統文化と環境福祉の専門学校、ホテル大佐渡、佐渡市立図書館【東京都】
 <渋谷区>表参道・新潟館ネスバズ <中央区>プリンスにいがた <千代田区>新潟市東京事務所

本誌に掲載されている写真等の無断転載は遠慮ください。

エコプレス
バインダー

針金・糊・加熱が不要な
製本方法を採用し、
リサイクルや怪我の危険へ
配慮しています。

RICE INK® この印刷物は環境にやさしい
米ぬか油を使用したライスインクで
印刷しています。

Take Free

ご自由にお持ちください

春の嵐でせりあがった日本海が、関屋分水路の新潟大堰をめがけ次々に侵入していく。
 政令市新潟の沿岸は、いつも風と波の威力にさらされている。(新潟市中央区)

がんばろう ● ニッポン!



[F u u d]
 2021
 秋号
 —季刊—

長岡市寺泊
 弥彦村
 柏崎市
 想い | つくる | 伝える

開け放たれた戸から秋風が通り抜ける清浄な祝詞舎で、風神祭のクライマックス祝詞奏上へと移る前の拝礼の儀(写真上)。神社の長い歴史を偲ばせる独特の所作で神饌を運ぶ神職(写真中段の右端と左端)。深々と頭を下げ祝詞に聞き入る氏子総代(中段の中央)。

新潟は特徴的な風の宝庫かもしれない。

世界的にも有数な豪雪地帯があるのも、
国内最大級の砂丘列が存在しているのも、

冬の季節風と地形に起因する。
「海陸風」も「ダシの風」も吹く。

いつでも、どこでも吹いている風をガイドに、
県内各地の文化や民俗、そして科学をめぐってみよう。

どうか穂やかに 吹いてください

想い 古代と変わらぬ心

彌彦神社の風神祭

開け放たれた戸から秋風が通り抜ける清浄な祝詞舎で、風神祭のクライマックス祝詞奏上へと移る前の拝礼の儀(写真上)。神社の長い歴史を偲ばせる独特の所作で神饌を運ぶ神職(写真中段の右端と左端)。深々と頭を下げ祝詞に聞き入る氏子総代(中段の中央)。

開け放たれた戸から秋風が通り抜ける清浄な祝詞舎で、風神祭のクライマックス祝詞奏上へと移る前の拝礼の儀(写真上)。神社の長い歴史を偲ばせる独特の所作で神饌を運ぶ神職(写真中段の右端と左端)。深々と頭を下げ祝詞に聞き入る氏子総代(中段の中央)。

風は人間の力では、どうにもならない自然現象である。しかし日本人の祖先の想像力は、風そのものを神として崇め感謝と畏敬の念をもって接し、神威がもたらされることを祈ってきた。

越後一宮彌彦神社では古来から風の神さまを鎮める神事・風神祭が行われてきた。今年も立春から数えて二百十日目にあたる九月一日には季節の境目で、台風シーズンを迎える時分にあたることから、収穫を控えた農民などから恐れられた日である。

神社の記録によれば江戸時代には「風祭」と呼ばれ、二百十日当日在りの本祭とその十日前と二回の祈祷があり、本祭には神職の全員が奉仕する重要な神事だった。また、その日は休日となつたと伝えられている。農耕をはじめとする開拓の

ひつそりと執り行われた。二百十日とは季節の境目で、台風シーズンを迎える時分にあたることから、収穫を控えた農民などから恐れられた日である。

神社の記録によれば江戸時代には「風祭」と呼ばれ、二百十日当日在りの本祭とその十日前と二回の祈祷があり、本祭には神職の全員が奉仕する重要な神事だった。また、その日は休日となつたと伝えられている。農耕をはじめとする開拓の

心洗われた三十分

かつきり十時。ドン・ドン・ドンッ！太鼓が打ち込まれ、風神祭の始まりを告げる。柔らかだった空気が一瞬にして引き締まる。やがて宮司をはじめ奉仕する五人の神職が祝詞舎に姿をあらわし、それぞれの役割に添つた所作を優雅にこなしていく。無音。神職たちの動きを妨げるような鳴り物はなく、独特的の所作のせいか

列を行なう賑やかなお祭りも、すべて神を祭ることからスタートしています。時代の経過とともに二次的な行事がプラスされ、人目をひく派手な方がクローズアップされ、それが祭りのように認識されていますが、風神祭のように神に願いを聞き届けてもらうために、心静かに祈ることが、祭りの本来の姿なのです」。なるほど、人間の弱さを素直に認め神の力を乞う心が大事だった。日本人の心の原点を知り、そのシンプルさになお心が洗われた。

*2021年の『二百十日』は8月31日。国立天文台の太陽観測から、立春が例年より1日早い2月3日だったため二百十日も1日繰り上がった。



弥彦山を背にする彌彦神社。明治45年の炎上後、風の通り道に対し直角になる現在の場所に再建され、今年で遷座105年を迎えた。設計は築地本願寺などを手掛けた異能の建築家伊東忠太。施工は長岡市三島の長谷川熊平を棟梁とする新潟の大工チームが行った。雨に濡れた社殿はいっそう荘厳さを増し途切れぬ参拝者を迎えていた。

みんなが 気象予報士

つくる

鋭い観察眼

寺泊の荒町漁師

海上で働く漁師にとって風向きや強さの予測は、最大の関心事

である。現代のように精度の高い気象情報がなかった昔は、どうしていたのだろう。五感と体力が勝負だった頃の話を、かつて威勢のいい漁師たちで賑わっていた長岡市寺泊の納谷幸蔵さんに聞いた。



地上44mの観測地点で最大風速4.7m/sの風が吹いていた、9月7日の寺泊港。佐渡がくつきり見え、巨大な雲が島の方向に流れていた。その遠くの空の下にかつて荒町漁師が活躍した漁場がある。

みんな隣近所なので、出港しない時はすぐに家に知らせがきました。

海上に吹く風

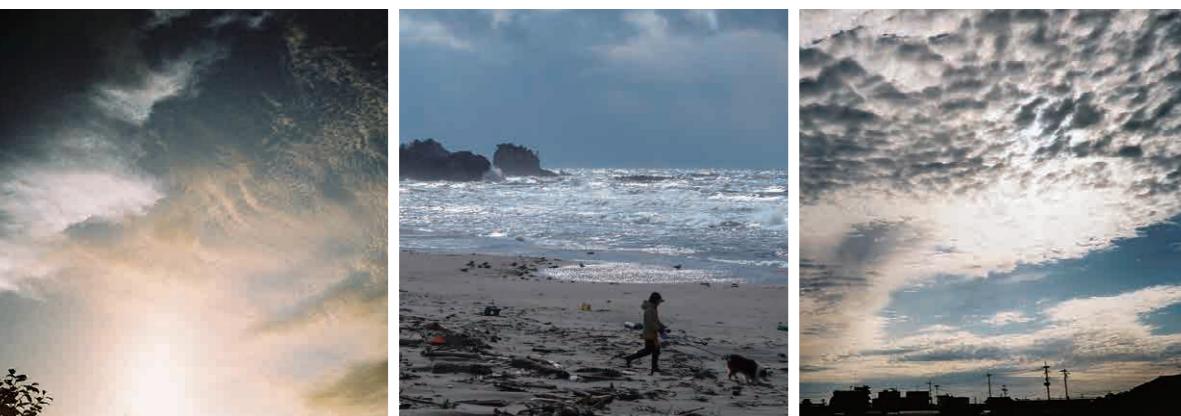
予測が外れたことは、なかつたのか。「さば漁をしていた時でした。エンジンが故障してしまいました。でも風がおさまってから、やつとのことで港に戻ってきたことがあります。それと佐渡に近い沖で漁をしていた時、夜中に突然海上が時化まして、近くで操業していた僚船の船頭と相談し、途中で漁を切り上げ帰ってきたことがあります。あの時、船頭たちの判断

がもう少し遅かったらと思うと、今でも怖くなります。その時も年配の漁師の觀察力と判断力は凄いと思いました。自分が見ている限りでは、海上の波は静かで、すぐに嵐が来ることなど想像できなかったですがね」と納谷さんは語る。

アーログ天気予報

昔の人は空模様や動植物の生態から明日の天気を予測する、その土地だけで先祖から言い伝えられた生活の知恵があった。寺泊町史には、伝承されてきた庶民の天気予報が多く記録されている。風に関係する一部を抜粋すると、海が時化する兆候として『秋の朝、カミラシ(カミゲ)が吹く』『佐渡モゲが吹く』『海鳴りが弱い』『米山がよく見える』のほかに『夕方、カ道の草が露をもつ』がある。ちなみにカミラシやカミゲとは寺泊特有の風の呼び名。上手の出雲崎方向から吹いてくる風のこと。シモゲは下手の弥彦・分水の弥彦方向から吹く風をいう。あたりまえだ

す。そのため天気が急変することがあり、判断を誤ると命を落としかねない怖い風なんです。確かに天気は偏西風の影響で、西の方角からは、陸から眺めているだけでは想像できない、命のやりとりが繰り返されていたのだった。柔軟に話す納谷さんだが、その胸のうちに苛酷な状況を何度も越えてきた海の男の勁さを秘めていた。



いました」。目印になるものがない海上では、遠くに見える山の力で現在地を測定するへやまあて」という伝統的な方法を用いる。「経験の浅い私にはやまあては難しかったです。その点、年配の漁師は正確に区割りの位置を見定めることができて凄かったです。かわりに怖かったです。間違ったことをすると『何やってんだ！ この野郎！』とよく怒鳴られました」。

タラ漁は日本海がもっとも荒れる十一月から翌年の六月頃まで行なわれます。出港は毎日、朝の三時頃。時代が近づいている日など、出漁をもつ船しか漁ができる決まりでした。寺泊では五隻の船が権利を持ち、つねに船団を組み一斉に出港し、それぞれに割り当てられた区域で操業します。でも場所により漁獲量に差がでることから、海域をさらに五つに区切り、その区画を一日交代で操業して



納谷さんの記憶をもとに再現された沖漁師の弁当・チゲ。寺泊産の曲物で、2食分の食事を持ち運べる。(撮影:長岡市 寺泊民俗資料館)

地域の風を科学する

伝える 自然現象の翻訳家

風のとおり道

風は住宅や高層ビルが集中する都市にも、いろいろな影響を与える。

地域の地形によって作用する風は、千差万別。その中でも広範囲に吹きわたるスケールの大きな風と、地表面の建築物に関係して複雑に変化するミニマムな風がある。この局地点に吹く風の現象を、予測・制御する研究を行なっている大学の研究機関がある。柏崎市にキャンパスを置く新潟工科大学の風・流体工学研究センターである。私たちが感覚的に知覚する身近な風を、科学の眼はどうに捉えるのか。そして、その成果はどのように反映されるのか。地域の「風」に着目し、建築・都市環境工学の視点から建物と風の関係を追求しているセンター長の富永禎秀教授に話を伺った。

「風によって日本の文化は育まれてきました。風は雲を運び雨や雪などの恵みを人間にもたらします。ほどよい風は農作物の受粉を助けた。でも強すぎると人間の敵になってしまいます。とくに海岸線の長い新潟県は、冬季に日本海から吹く強風により、ビル風だけでなく地吹雪、飛砂など都市部のさまざまな環境上の問題が発生しています。当センターでは、それらの要因になる風の実態を、風洞実験によるシミュレーションと専門的な数値解析手法を用いて解き明かし、それを地域の課題解決に向けた基礎資料として役立てて研究に取り組んでいます」。風と建物について「もともと何もない場所に人為的に高い建物を作るのなら、少しでも安全にするべきだと考えています。風は空気の移動現象で、空気はより抵抗の少ない場所に流れています。でも風の道があります。ですから公共施設を作る時は、周辺地区の風の通り道を細密に把握した上で建物の配置計画を練る必要があります。既存の施設の場合は解析結果に基づいて風当たりの強い部分に風を柔らげる植栽やフェンスの設置など

は、四階建てでも東京の高層ビルに匹敵するビル風が起ころう。そこでもうか、やっぱり風の吹き方に平均値はなかったのだ。ちなみに日本は「風工学」という、風と地表面にいる人間との間で起こる問題を解決する研究が進んでいる。その分野をリードする有力メンバーに多くの日本人研究者がいるという。世界的に台風が来る回数の多い日本は、強風から命の守るニーズが高く昔から研究が盛んだったのだそうだ。

風神雷神図

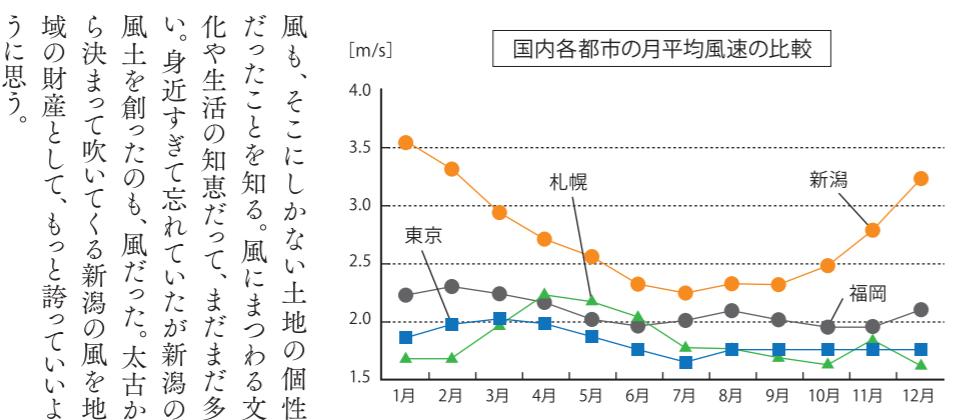
それでも、常に動き目に見えない風をどのように視覚化するのか。工学系に弱いものには話を聞いても具体的な像が浮かんでこない。それを見かねたかのように「実際に風洞実験をみればわかりますよ」と富永さんにいわれ研究棟に移動した。そこは天井が高く、何かの工場のように、いろいろな実験装置が置

かれ、奥に進むと鉄骨で厳重に保護された送風ダクトが見えてきた。最大で風速二十五メートルの人工の風を起こす巨大な送風機が地下室にあり、ダクトを通して測定部に風が送られてくる。測定部の規模は建築用としては国内最大級のもので、そこに建築物などの模型をセットし実際に市街地に吹く風を模した風を作り、建物周辺の風の流れや強さ、作る風圧などを測定する。風洞装置の周りには、研究対象になる現地の家並みを忠実に再現したジオラマ風の木製模型や、学生が手作りした発泡スチロール製の模型が置かれ、先端の測定機器と対照的な温かさを振りまいていた。そしてレーザー光で浮かび上がる風を見せてもらいう。なんと、そこには俵屋宗達の風神雷神図を彷彿とさせるダイナミックな躍動美があった。風の強い日、高層ビルの周辺からヒュルルーンと聞こえてくる音の正体は、風と風が複雑に絡み合って発生した

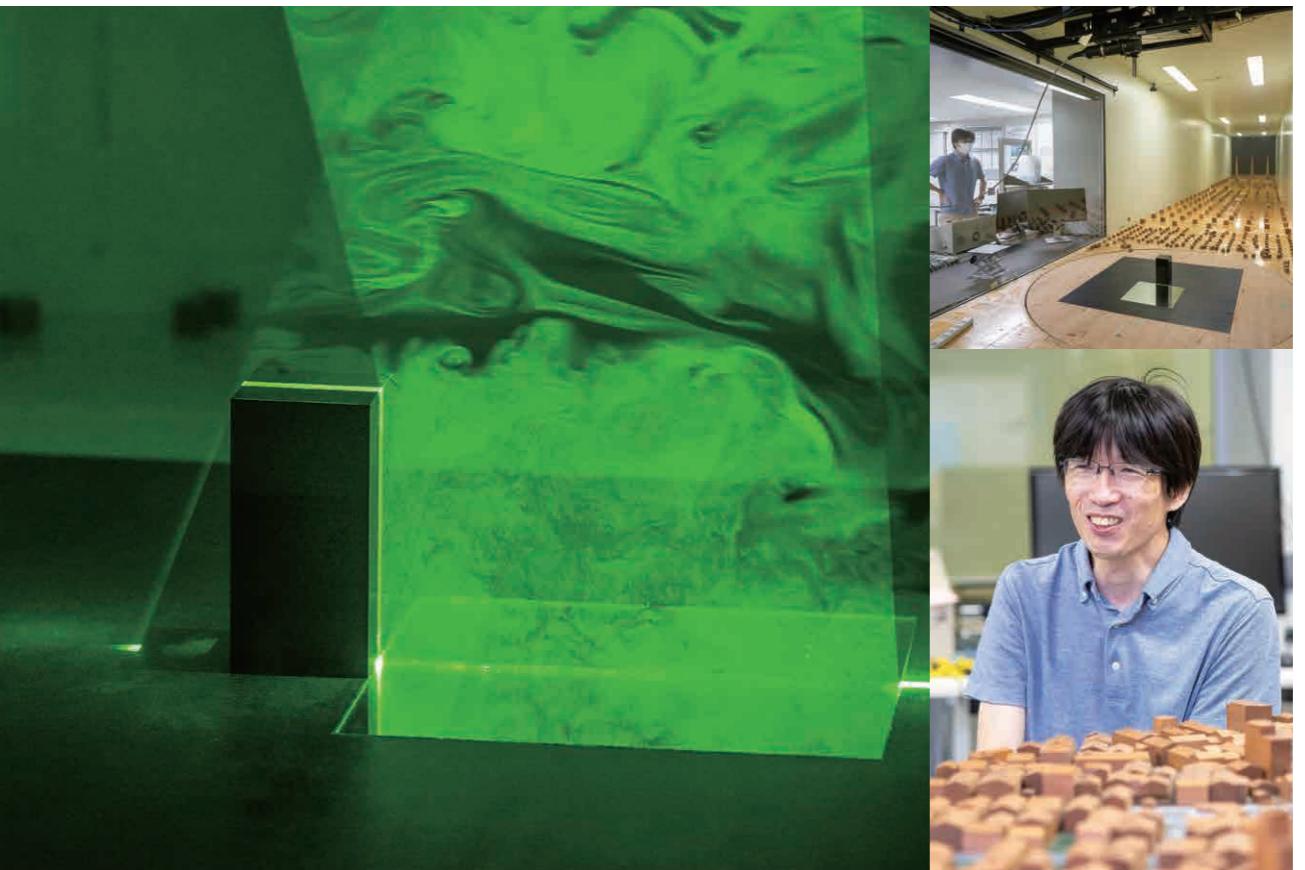
音だった。しばらくの間、装置のなかで暴れる風を見ていると、毎冬耳にする風の唸り声が行く手を遮られた風の叫びのようにも思ってきた。この時、風を視覚化することの意義がようやく理解できた。それはあたかも自然の風が言葉を持ったと言つてもいいほど、風の実態を知り、それを表現できる優しい知性がなければできない研究だった。

研究棟を後にすると、富永さんが「風は目に見えないものなので、実験ことがわかり、面白いです。その結果が世の中に役に立つと思うと、地味な作業は苦にならず、やりがいを感じます」と科学少年のような笑顔を浮かべた。

日本の主要都市と比較して新潟市の風は、ダントンに強いと富永さんに教わり、季節が来ればあたりまえに吹いてくる風が実は特異なものだったことに気づく。そして、それぞれのローカルな風や街に舞う小さな



気象庁の観測結果を元に、観測地点の高さの違いを補正。
(資料提供: 新潟工科大学 風・流体工学研究センター)



レーザー光による風の流れを可視化する実験で浮かびあがる風模様。ビル風が起きてる様子がひと目でわかる(写真左)。国内最大級の大型風洞測定部の内部。写真の奥から手前に向けて最大で風速25m/sが吹いてくる(写真右上)。地表面の風と人間の関係を追究するセンター長の富永禎秀教授(写真右下)

の風対策を提案します。建物がある限り、将来にわたり永続する環境になるので、風を数値化し視覚に訴える研究は、とても重要です」。一棟のビルでも風上と風下では風の強さが

大きく異なり、周囲の住宅や道路の配置との関係で、ピンポイントで風向きや強さが変化するなど研究でいろいろなことが明確になったといった。また新潟市の浜手の砂丘上にあるビル



インフォメーション

越後一宮 猿彦神社

〒959-0393 西蒲原郡弥彦村弥彦2887-2
TEL 0256-94-2001

新潟工科大学 風・流体工学研究センター

〒945-1195 柏崎市藤橋1719
TEL 0257-22-8110

読者の声 ~前号を読んで~

種から命の気をもらう

前号は種が主役とあって、読んでいるこちらも命がみなぎるような気を感じました。巻末の宮島さん、いい写真でした。

(長岡市 40代女性)

新潟の多様な農作物

2021夏号の「読者の声」は県外の男性からのもの。他県の方がくふうどを読まれ、新潟県に来たいという気持ちになられているのが、とても嬉しいです。『にいがたの家宝』。米だけではない新潟の多様な農作物が、広く全国に知ってもらえた良いですね。

(新潟市 50代女性)